

(3) 実際 (※→評価 □→指導の手立て ○→できる児童への指導 △→できない児童への指導)

【例】

過程	主な学習活動	【機】	時間	教師の支援と評価
つかむ	1 前時の学習を想起し、本時の学習のめあてを確かめる。 言い伝えとぬるでの木のかげの歌はどんなちがいがあるだろうか。	—	5	○ 本時は、前時に焦点化された共通課題による学習であることを確認させる。 ○ 黒板に、二つの歌を模造紙に書いたものを横に並べて貼り、どんな違いがあるか予想させた上で学習の進め方を決める。 ○ 歌を楽しく音読したり発表したりするために、グループは4グループとし、黒板前に舞台を設置し、おじてさんのお面を準備するなど場の設定を工夫する。 ○ 言い伝えと歌の内容や背景をもとに速度やリズム、声の調子、高低などの違いに気をつけて読ませる。身振りや節を工夫できるところは、取り立てて発表させ、表現のよさを認め合うようにさせる。
みとおす	2 学習の進め方を話し合う。 ・ 二つの歌を読み比べる。 ・ 視写して意味を考える。 ・ 内容や背景を比較する。	齊		
しらべる	3 言い伝えと歌を詠み味わう。 (1) 言い伝えと歌をどんな感じで読んだらいいか話し合う。 ・ 言い伝え～こわごと、ゆっくり ・ 歌～軽快に、調子よく (2) 言い伝えや歌の意味を考えながら視写する。	グループ		※ 二つの歌をどんな感じで読めばよいか考え、表現することができたか。 ○ 表現の良さを賞賛し、友達に紹介させる。 △ 友達の発表を聞き、どんな感じで読めばよいか表現できなくても読みの感じを確かめさせる。
ふかめる	・ 言い伝え 三年きりしか生きられぬ ・ 歌 一ぺん転べば 三年で 十ぺん転べば 三十年 (3) 内容や背景を比較して違いについて話し合う。	個	35	○ ワークシートに二つの歌を視写させ、意味を口語訳で書かせる。 ○ 二つの歌の意味の違いが、どの言葉から生じてくるか黒板の模造紙をもとに話し合わせる。 ※ 二つのリズムや内容の違いを、場面の背景と関係付けながら読み取ることができたか。 ○ 読みをもとに、読んだ時の気持ちを素直に表現させる。 △ 模造紙をもとに場面と背景をもう一度振り返らせ、挿絵等から感じる雰囲気をつかませるようにする。
ふりかえる	4 本時の学習をまとめる。 同じ三年とうげで転ぶ歌なのに、「三年しか生きられない」、もう一方は「三十年生きられる」というように見方が違っている。	—		○ 同じ三年峠で同じように転ぶことについて、対照的な二つの見方であることを理解させるために、病気になってしまったおじいさんやトルトリの考えとも関連して少し触れさせておく。 ○ 歌われている場面の情景を思い描かせ、背景とも関連付けて理解させる。
いかす	5 次時の学習について話し合う。	齊	5	○ 二つの歌を比べて何が違うかをノートにまとめさせ、数名発表させる。 ○ 次時は、おじいさんの気持ちの変化の読み取りであることを確認し、意欲付ける。

(4) 評価 (本時の評価基準に沿って評価内容を設定する)